



「サソール・ソーラーチャレンジ・サウス・アフリカ2012」の優勝報告会を開催しました



南アフリカ共和国で開催された代替燃料車による世界最長の自動車レース「サソール・ソーラーチャレンジ・サウス・アフリカ2012」で優勝した東海大学チャレンジセンターの「ライトパワープロジェクト」ソーラーカーチームが10月5日、東京・霞が関の東海大学校友会館で優勝報告会を開催しました。

同大会は、国際自動車連盟(FIA)が公認した代替燃料車によって競われる自動車レースです。今回は南アフリカ共和国の首都・プレトリアをスタートし、ケープタウンからセツンダを経由して再びプレトリアに戻るとい同国をほぼ一周する4,632kmのコースが設定され、標高差約2,000mに及ぶアップダウンや急カーブが出現する大変厳しいものとなりました。大会は9月18日から28日まで、日本、インド、南アフリカから14チームが出場して開催され、本学チームはパナソニック株式会社や東レ株式会社を始めとした多数の企業の協力を受け、学生たちが製作したマシン「Tokai Challenger」で参戦。総走行時間71時間13分、2位に合計で18時間42分の大差をつけて優勝しました。今大会の優勝は2008年、2010年に続き3連覇となり、2009年、2011年のオーストラリア大会を含めると国際大会5連覇を達成したことになります。

報告会には、来賓として開催国である南アフリカ共和国から駐日特命全権大使モハウ N.ペコ閣下、一等書記官のトーマス・クロニエ氏にご臨席いただいたほか、新聞や雑誌など約20社の報道関係者が参加。本学から高野二郎学長、チャレンジセンターの大塚滋所長(法学部教授)、チーム監督を務める木村英樹教授(工学部)、学生代表の鈴木一矢さん(工学部3年次生)に加え、太陽電池や高容量リチウムイオン電池の提供を受けたパナソニック株式会社から、ブランドコミュニケーション本部 宣伝・スポンサーシップグループ スポンサーシップイベント推進センターの西貝宏伸所長が登壇。レースを戦った学生メンバー19名のうち、7名も参加しました。

高野学長はあいさつで、協力いただいた企業や開催国である南アフリカ共和国の関係者に謝辞を述べるとともに、「ソーラーカーへの世界の注目度は年々高まっており、大会は世界の最先端技術の戦いの場とも言えるでしょう。そんな中で、本学チームが今大会で3連覇、国際大会で5連覇を遂げたことは日本企業の技術の勝利といっても過言ではありません。今後も企業の皆さまのご支援をいただきながら、学生と教職員が一体となりプロジェクトの発展を目指していききたいと思います」と話しました。

続いて木村教授と鈴木さんが結果報告に立ち、レースの概要や期間中の活動について紹介するとともに、レースでのライバルチームとの駆け引きや優勝に至るまでの道のり、レース途中でのアクシデントについて動画を披露しながら説明。木村教授は勝因について、太陽電池やリチウムイオン電池、炭素ボディ、衛星画像などを統合した総合力を挙げるとともに、「すべての構成要素が高いレベルで仕上がりと、他チームと比べて弱点がないことが最大の強みだった」と解説しました。



[前の記事へ](#) [記事一覧へ](#) [次の記事へ](#)